



留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ドル)	日本円	備考
授業料		円	
宿舍費	7,430(1semester 3715)ドル	1,040,200 円	1ドル140円計算
食費	650(Tiger Eats)+ 約 800ドル	約 203,000 円	Tiger Eats(1semester 325ドル)
図書費		円	
学用品費	360ドル	50,400 円	smart tiger(1class \$72)
携帯・インターネット費	180ドル	25,200 円	
現地交通費		円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費	約 70ドル	約 10,000 円	
医療費	30ドル	約4,200円	ツベルクリン検査代
保険費	約945ドル	132,490 円	形態: 明大サポート(海外旅行保険)
渡航旅費	2,530ドル	354,200 円	
ビザ申請費	160ドル	22,400 円	
雑費		円	
その他	約 2,857ドル	約 400,000 円	旅行の飛行機代・宿代
その他		円	
合計	約 16,000ドル	約 224 万円	

## 渡航関連

渡航経路	
往路 出発地: 成田 目的地: メンフィス 経由地: ダラス	
復路 出発地: ホノルル 目的地: 成田 経由地: (メンフィス-フェニックス-ホノルル)	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: JAL 料金: 354,200	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:            料金: 復路 航空会社:            料金:                    ∴合計:	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:        )	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: JAL 公式ホームページ)	
<input type="checkbox"/> その他(            )	
滞在形態関連	
1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: Carpenter Complex) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2) 部屋の形態	
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数: 秋: 日本人1人、現地学生2人; 春: 現地学生3人)	
3) 共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン( <input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4) 住居を探した方法:	
MyMemphis というマイページの housing application から行った。留学生は基本的に Carpenter Complex に割り当てられることになっていると思う。	
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
私は初め、Carpenter Complex ではない寮に割り当てられ、直前に Carpenter Complex に変更になるという手続き上のミスがありました。寮の部屋はアパートメントタイプで 4 人で一つのキッチンを共有するタイプの寮でしたが、個人の部屋がありプライベートがしっかりあったこと、そしてルームメイトもみんなとてもいい人だったので、快適に過ごすことができました。	
ただ、電子レンジがないことや、トイレの部品が破損した際に修理に 1 週間ほどのかかったことは不便だなと感じました。また Bed Flea に苦しめられている日本人学生が多数いたので、かゆみ止めなどを持ってくることをお勧めします。	

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし  
 あり (治療を受けた場所: Health Center)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。  
 (例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし  
 あり (問題の内容や相談した人等: )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

現地の危険情報は LiveSafe というアプリ(学校が運営している)やメールなどで確認していました。特に学校から届く Safety Alert のような注意喚起のメールには目を通すようにしていた。また、基本的に夜一人で行動することや、遅い時間に開港される授業は避けて履修を組むようにしていた。

犯罪に巻き込まれたことはないが、学校の周辺で事件が起こった場合は学校からメールで届く指示に従うこと、また、異常気象(トルネードやアイスストームなど)により警報が発せられている場合にはルームメイトと安否確認を行うなど、一人で対処しないようにしていた。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯電話は日本で事前に esim のプランを購入し現地についてからすぐ使えるようにしていきました。学内は基本的に WIFI が通っているのでパソコンなどは問題なく使うことができました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

念のため、クレジットカード 2 枚(ブランドが異なるもの)、デビットカードを 1 枚持っていました。デビットカードをメインに使っていました。現金は割り勘をするときに使いました。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

かゆみ止めなどを含む薬類、食べ物(しょうゆやみりん酢などの調味料類、米はスーパーで買うことができますが、日本のお菓子などは現地の学生に人気だと思います。)

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

### 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
27単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Business of Hospitality	ホスピタリティ
科目設置学部・研究科	Hospitality
履修期間	秋学期
単位数	3.00
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に85分が2回
担当教授	Prof. Carol
授業内容	ホテルにおけるホスピタリティーの基本的な知識について学ぶ
試験・課題など	毎週クイズを受ける課題があった。
感想を自由記入	とても気さくな女性の先生で、留学生にとっても配慮してくださる優しい先生だった。授業内容も比較的易しく、楽しく授業をうけることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Cultural Anthropology		文化人類学	
科目設置学部・研究科	Anthropology		
履修期間	秋学期		
単位数	3.00		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に85分が2回		
担当教授	Prof. Safa		
授業内容	文化人類学の入門的な知識から学び、文化人類学何かをいくつかの分野に分けて学習しました。言語、経済、ジェンダーや家族、宗教など。		
試験・課題など	マークシート式のテストが3回ありました。 また、教科書の内容を問うクイズや、授業内でみる動画に対する Reflection を述べるライティングの課題があった。		
感想を自由記入	授業ではパソコンや携帯電話の使用は一切禁止されていたので、わからない単語があるときは大変であった。 授業は先生が問う質問に生徒がたくさん自分の意見を発言する形式であったので、とても興味深かった。 マークシートのテストは簡単とは言えなかったので、教科書を読むなどの事前準備に割と苦労した。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Japanese Culture and Society		日本の文化と社会	
科目設置学部・研究科	Japanese		
履修期間	秋学期		
単位数	3.00		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に85分が2回		
担当教授	Hironori Nishi		
授業内容	日本の社会や文化を学ぶ授業。授業の前に先生もしくは、各週に割り当てられた生徒たちが紹介するテーマをもとに日本の文化や社会、歴史について学習する。		
試験・課題など	隔週200字程度の課題があり、試験はない。ディスカッション用のプレゼンを行う。		
感想を自由記入	日本語の学部設置される上級のクラスなので、日本について比較的知識を持っている現地学生によって構成されている。彼らが日本の文化や社会についてどのような考え方をしているのか知ることができ、とても興味深かった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Multicultural Psychology		多文化心理学	
科目設置学部・研究科	Psychology		
履修期間	秋学期		
単位数	3.00		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 85 分が 2 回		
担当教授	Prof. Srisarajivakul		
授業内容	多様なエスニシティに対する心理学のあり方を学んだ。具体的には、エスニシティと人種の違いや心理学の成り立ち、様々な精神疾患や、文化的背景に基づくセラピーのあり方などについて学んだ。		
試験・課題など	一学期を通して比較的重めなペーパーの課題が3つあり、グループプレゼンテーションや、授業内でのアクティビティが何度か行われた。MidtermとFinalのテストでは、二度オンライン上でテストがあったが、どちらも授業資料などの閲覧が可能であったため、比較的容易であった。		
感想を自由記入	とても親切な教授であったため、留学生ということもありとても配慮してくださった。授業は基本的にディスカッションがメインであったため、周りのディスカッションしている内容について理解するのに苦労した。授業内容自体はとても興味深く、周りの学生の様々な経験や同じく授業を履修していた他国からの留学生の経験などを知れたことなどもあり、とても新鮮な授業でした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Intro African American Study		アフリカンアメリカンの歴史	
科目設置学部・研究科	AAAS		
履修期間	春学期		
単位数	3.00		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に85分が2回		
担当教授	Prof. Malone		
授業内容	アフリカンアメリカンという学問分野の始まりや、市民革命、心理学、政治、家族論やジェンダー論などすべてアフリカンアメリカンの視点から学ぶという授業内容であった。		
試験・課題など	隔週でオンラインクイズを受ける課題があり、また一学期を通じて3回程ペーパーの課題があった。		
感想を自由記入	授業に参加している学生の9割がアフリカンアメリカンの授業であったため、経験などを共有する間などは少し、まわりに馴染めなかった。ペーパーの課題も、教科書のChapter1-3に対するReflectionを書くなどの内容であったため、と一番苦労した授業であったと感じる。ただ、授業内容は興味深く、無知な自分に気づかせられ、差別の歴史などについてたくさん考えさせられる授業であった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Intermediate Chinese II		中級中国語	
科目設置学部・研究科	Chinese		
履修期間	春学期		
単位数	3.00		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に55分が3回		
担当教授	Prof. Gao		
授業内容	中国語の教科書に沿って文法やスピーキングなどの練習をした。		
試験・課題など	隔週で漢字の書き取りテストが行われ、また、MidtermとFinalではOralテストと筆記試験のどちらも行われた。		
感想を自由記入	授業は日本で第二外国語の授業を受けるようなものと大差なく行われた。しかし、文法や例文などの中国語を英語で教えられるということに初めはとても混乱した。少人数で開講されるクラスであることや、彼らにとっても外国語であるということから活発に授業に参加することができた。Oral testでは、クラスみんなで一つの物語を作って発表するなど楽しい授業であった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Oral Communication		オーラルコミュニケーション	
科目設置学部・研究科	Communication		
履修期間	春学期		
単位数	3.00		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に85分が2回		
担当教授	Prof. James		
授業内容	Public Speakingに必要な要素について学んだ。話し方や、発表のつかみの話し方、観客の興味の引き方などについて学んだ。		
試験・課題など	毎回の授業前までに提出しなければならないクイズの課題があった。また、隔週で impromptu プレゼンテーションが行われたり、大きなプレゼンテーションが3回、それに伴って outline の課題提出が3回あった。		
感想を自由記入	授業に対する不安があるときは快く助けてくれるとても親切な教授の授業であった。ただ、impromptu プレゼンテーションがあるときは毎回とても緊張した。プレゼンテーションなど毎回の課題に教授がアドバイスをくれるため、とてもためになることと併せて、現地学生のプレゼンテーション力がとてもレベルの高いものであるため英語力を高めたい人に向いている授業だと感じた。		



履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Rhetoric of Pop Culture		ポップカルチャーの修辞学	
科目設置学部・研究科	Communication		
履修期間	春学期		
単位数	3.00		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に85分が2回		
担当教授	Prof.Morton		
授業内容	pop culture 特にラップ音楽に焦点を当てて、ラップ音楽の歴史やうたわれ方の特徴、そこから黒人の歴史などについて学ぶ授業であった。		
試験・課題など	テストなどはないが、毎週 Reflection Paper という週初めの授業を受けた後にその授業に対する感想や、感じたことなどいくつかのセクションに分けて述べるペーパーの課題があった。また、Finalとして授業内でのプレゼンテーションの課題と3分程度のプレゼンをビデオに録画する課題もあった。		
感想を自由記入	授業自体はそれほど難解ではなかったが、ラップ音楽に詳しくないとわからないことがままあった。また、ラップの歌詞の意味をディスカッションする際に、スラングのような英語表現などがたくさんあるため、意味を理解するのが難しかった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
English Composition		English Composition	
科目設置学部・研究科	English		
履修期間	春学期		
単位数	3.00		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に55分が3回		
担当教授	Prof. Cameron		
授業内容	Writing の書き方について学ぶ授業であった。より洗練された Writingを構成するために文章を書く方法や、構成の仕方、もしくはどのような口調で述べるのか、自分がどのようなプロセスでwritingをしているのかなどについて学んだ。		
試験・課題など	毎週writingのペーパー課題があった。特に大きなものだと、5ページ以上書くペーパーが3回程度あった。テストなどはないが、毎回の課題提出率と出席率などが重視されていたと思う。		
感想を自由記入	Writingの授業ということもあって、ペーパーを書く課題がとて多かつたことに苦労したが、最後のほうには慣れてwritingをすることへの抵抗を減らすことに大いに役に立ったと考えている。毎回のペーパーの課題の際にstudent exampleなど過去の良い作品を読むことができたことや、peer reviewなど課題の本提出の前に行われるアクティビティがあったことにより、他者のアイデアや新しい言い回しなど知ることができ、授業が終わる頃には大きな収穫のある授業だと感じる。		

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。  
(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	留学フェアに参加し情報を集める
	8月～9月	
	10月～12月	IELTSなどの試験受験、選考・出願
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	ビザの申請、各種手続き
	8月～9月	渡航
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

私がメンフィスを選んだ理由は、日本人留学生が比較的少ない環境に身を置いて英語を学びたいと考えたこと、そして、メンフィス大学に日本語学部があり、現地にも多少なり日本に興味がある学生がいるのではないかと考えたことが大きな理由です。ただ、メンフィスという地域がアメリカ国内でも有数の危険な地域であることなど詳しく調べていなかったため、選考前にもう少しリサーチをしていくべきであったと渡航前とても後悔し、不安で行きたくないという気持ちすらありました。長期留学に行くことが自分の大学生活における一番の目標であったこと、コロナ下でただ単調に過ぎる毎日に変化が欲しかったこと、最後に両親がとても積極的に応援してくれたこともあり、選考に挑戦し、協定留学で一年留学するという権利を獲得でき、そして留学期間を振り返って過去の選択は間違いではなかったと感じています。

「メンフィスに留学すること」ということの中に他の留学先と比較したときに見られるあまり魅力的ではない点がたくさんあると思います。危険な地域であること、南部訛りがある英語、アジア人留学生が少ない、など様々上げることができるとは思います。しかしそれら全ては最終的に自分の達成感を高める要素であると考えられると感じます。現地に到着して1週間以内に大きな事件何度か起こったり、移動手段が限られていることを不便に感じることもあったり、授業についていくのが困難であったり、留学中はたくさんの場面でストレスを抱えることがありました。しかし、同じ日本人留学生、現地で日本語を学んでいる学生など、たくさんの人が周りにおいて助けてくれることを忘れなければ、確実に留学を乗り越えられると思います。特に日本語を学んでいる現地学生はlanguage partnerとして英語力の向上を助けてくれることだけでなく、授業でつまづいたりしたときに親身になって助けてくれると思います。

現地の大学で授業に参加して得た知識や経験は自分の強みになりますし、私自身留学して家族とすら思えるような友達に出会うこともできたので、頑張りすぎず貴重な時間を楽しんでほしいと思います。